

オスプレイ追加配備に断固抗議し、配備撤回を求める（談話）

2013年7月31日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

日米両政府は昨30日、追加配備のためのMV22 オスプレイ 12機の米軍岩国基地への陸揚げを強行しました。これは、沖縄県民をはじめ、日本国民の意思を踏みにじる暴挙であり、断じて許されません。

オスプレイは周知のように、開発段階から墜落事故を繰り返し、多くの人命を奪ってきた危険な欠陥機です。

昨年10月に沖縄の普天間基地に配備されたオスプレイは、沖縄県当局の調査によっても、昨年9月の「日米合意」に反して、危険なヘリモード・転換モードで住宅地上空などを飛行しており、墜落の危険と騒音によって住民生活を脅かしています。これに対し、沖縄県と41全市町村がオスプレイ配備撤回の意見書を採択し、ことし1月には安倍首相に「建白書」を提出しています。

昨年来、全国知事会をはじめ、全国の多くの自治体議会でオスプレイ配備撤回等の意見書が採択されています。

このような中で、さらにオスプレイ 12機の追加配備をおこなうことは断じて認められません。オスプレイは「殴り込み」を任務とする米海兵隊の軍用機であり、政府がいう日本を守るための「抑止力」とは無関係のものです。

今回の追加配備は、普天間基地での運用とともに、本土の米軍基地を拠点にした全国での低空飛行訓練のためのものであり、墜落の危険と爆音等の被害を全国に拡大するものです。

私たちは、度重なる暴挙に対して強い怒りをもって抗議し、オスプレイ追加配備を中止するとともに、沖縄・普天間基地に配備されているオスプレイを撤去するよう求めるものです。

また、MV22と同型の空軍用CV22 オスプレイの沖縄・嘉手納基地や東京・横田基地への配備が狙われていることにも強く抗議し、断じて許さない意思を表明するものです。

私たちは、オスプレイ配備撤回に向けて全国で運動を広げるとともに、オスプレイの拠点とされる在日米軍基地の撤去と、その根源にある日米安保条約の廃棄に向けて国民世論を高めるために奮闘するものです。

以上